建築人

11

2014

第７回
建築人賞

主催：公益社団法人 大阪府建築士会

公益社団法人大阪府建築士会では
本誌「建築人」の Gallery に掲載された建築作品を対象に
社会性、芸術性、時代性を考慮して、顕彰、公表することにより
建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的として
建築人賞を実施しています。

■ 審査委員長　古谷 誠章（早稲田大学教授）

1955年　東京都生まれ
1978年　早稲田大学理工学部建築学科卒
1980年　早稲田大学大学院修了
1986～1987年　文化庁芸術家在外研修員として
　　マリオ・ボッタ事務所在籍
1994年～　八木佐千子とスタジオナスカ（現NASCA）
　　共同設立
1994年～　早稲田大学理工学部助教授
1997年～　早稲田大学教授
本年度より建築人審査委員長

■ 表彰（設計者に対して）
建築人賞　　（賞状と記念盾）
建築人奨励賞（賞状）
※建築主・施工者には感謝状授与

■ 第７回 対象作品
「建築人」2014 年 1 月号から 2014 年 12 月号まで
Gallery に掲載された建築作品
※建築種別、建築地を問わない。但し、竣工検査済証を受けたもの

建築人賞 記念盾 「未来へ！」
グラスアーティスト 三浦啓子作

■ 審査方法（２段階審査・予定）
一次審査　建築人誌面、公開プレゼンテーションにより選定
二次審査　現地確認により選定

■ 受賞発表
建築人 2015 年 7 月号誌面（予定）

■ 問い合わせ
公益社団法人大阪府建築士会「建築人賞」係
TEL 06-6947-1961　　FAX 06-6943-7103

『建築人』Gallery 掲載作品 募集中
2014

会報誌『建築人』では、Gallery に 掲載する作品を
募集しています。

【掲載料】
カラー　２ページ　２０万円
カラー　１ページ　１０万円
モノクロ ２ページ　１０万円
モノクロ １ページ　　５万円
※モノクロページは住宅に限ります。

詳しくは、公益社団法人大阪府建築士会『建築人』
Gallery 建築作品掲載係まで。

大阪ホンマもん

参加費　一人1,000円（資料・お茶代等含む）
（懇親会費　税込3,240円別途必要）
※開催1週間前に参加証を送付予定。

建築士の会 南河内
「天野山金剛寺金堂（重要文化財）解体復元工事現場見学と古民家再生住宅訪問＋活動報告会」
12/6　CPD3単位（予定）

今回で4回目の「天野山金剛寺の金堂及び多宝塔（重要文化財）」の解体復元工事現場見学会を開催いたします。設計監理事務所長の青木弘治氏（公益財団法人文化財建造物保存技術協会）にご案内いただき、金剛寺拝観後、バス、電車で移動し、古民家改修の百年村で食事・活動報告後、古民家再生住宅を訪ね、施主の方から汐ノ宮の家プロジェクト（古民家を考える）のお話をしていただきます。日頃見ることのできない古建築を見学し、見聞を深めていただきます。
日時　12月6日（土）　9:00〜14:30
募集　30名（申込先着順）
参加費　3,000円（昼食代含む）
行程　9:00〜9:10　金剛寺金堂前集合・受付
　9:10〜11:00　金剛寺金堂・多宝塔解体復元工事現場見学
　11:00〜12:00　移動
　12:00〜13:00　昼食、26年度活動報告会
　13:00〜14:30　古民家再生住宅訪問
※開催1週間前に参加証を送付予定。

実践的センスアップマナー講座
11/22

わかっているようで、自己流になりがちなビジネスマナーを社会人としての基本的なマナーからビジネスチャンスに自信を持って挑めるような実践を交えたマナーを学びます。講師には元CAの講師をお迎えして、丁寧にわかりやすくご指導頂く「ワンコイン」講座です。年齢に捉われずどなた様も参加可能ですので、一度カスタマイズされたマナーを見直してみませんか?同会場にて講師を囲んだ懇親会を予定しております。
日時　11月22日（土）
　13:30〜14:00　基本の基本マナー紹介
　14:10〜15:10　実践的センスアップマナー①
　15:20〜16:20　実践的センスアップマナー②
集合場所　総合資格学院　梅田校
　（詳細場所は参加証に記載予定）
募集　50名（申込先着順）
参加費　会員500円　会員外1,000円
懇親会費　会員・会員外共1,000円
※開催1週間前に参加証を送付予定。

ちょっと知りたい建築セミナー　〜造園編〜
庭づくり入門!〜まずは寄せ植えから〜
12/21　CPD3単位（予定）

池田市の（株）荒木造園設計がこの春、本社敷地内にオープンしたカフェ「GULIGULI（ぐりぐり）」では、会社創設者である荒木芳邦氏が、造園を介して伝えたかった「楽しさ、驚き、喜び、高ぶり、安らぎ」が、見事に具現化されていると話題を呼んでいます。「荒木積み」と名付けられた石積みの手法など、（株）荒木造園設計がこだわる庭づくりの神髄に触れたあと、クリスマスとお正月向けの寄せ植えの体験を通して庭づくりの基本を学びます。
日時　12月21日（日）　13:30〜16:00
　（13:15受付開始）
会場　株式会社 荒木造園設計本社
　池田市鉢塚2丁目10-11
　（阪急石橋駅下車 徒歩10分）
詳細は参加証にてお知らせします
講師　荒木造園設計 造園設計担当者
募集　50名
参加費　会員3,600円、会員外4,600円
　（基本材料費を含む）
別料金で基本材料以外のものを植えることもできます。（当日清算）
企画　事業委員会女性分科会

1.17からの20年をふりかえって
第34回近畿建築祭「兵庫大会」
1/31

今回は「阪神・淡路大震災」の大災害から20年目の節目の年にあたります。今回主管する兵庫県建築士会が同会の20年の間の活動を検証し、輝ける未来への示唆に富んだ実り多き大会を計画しています。
開催日時　平成27年1月31日（土）
　10:30〜19:00
会場　神戸市産業振興センター3階 他
　神戸市中央区東川崎町1-8-4
　JR「神戸駅」より徒歩5分
参加費　3,000円（資料・昼食付）
スケジュール
9:30〜　受付
10:30〜　記念式典
11:10〜
　基調講演　室崎益輝（神戸大学名誉教授）
　テーマ「震災から20年ー防災安全と建築士ー」
12:30〜　昼食
13:30〜　セッション
　セッション①
　「事例に学ぶ役立つ防災実践と建築士の役割」
　セッション②
　「北野・山本地区の景観まちづくりを学ぶ」
　セッション③
　「歴史的建造物調査　平時のネットワーク構築を考える」
　セッション④
　「兵庫県建築士会　過去ー現在ー未来へ」
　セッション⑤
　「近畿あーきてくと2015ー地域のそなえー」
17:00〜　閉会式
17:45〜　交流会・10階レセプションルーム
　（会費5,000円）
申込締切　11月25日（火）
申込方法
　今月号同封の近畿建築祭参加申込書にご記入いただき、大阪府建築士会事務局までFaxでご送付ください。
※各セッション共定員を超えた場合は、第2希望もしくは第3希望になる場合もあります。
事務局fax　06-6943-7103

2014年建築関係団体合同忘年懇親会
12/12

恒例行事の建築関係団体合同忘年懇親会を本年も開催いたします。今年は本会が当番会になっております。ぜひとも多数の会員の皆様にご参加いただきますようご案内申し上げます。
共催　大阪府建築士会（当番会）・大阪府建築士事務所協会・日本建築家協会近畿支部・日本建築協会
日時　12月12日（金）　18:00〜20:00
会場　シティプラザ大阪2階「旬」
　大阪市中央区本町橋2-31
会費　5,000円
会費を添えて申込締切日11月17日（月）までに本会事務局までお申込下さい。11月25日（火）以降のキャンセルについては、会費のご負担をお願いします。
定員　300名
福引　豪華景品を進呈（有志のご寄贈品を含む）

平成27年在阪建築15団体合同新年交礼会
1/5

毎年恒例の在阪建築15団体による合同の新年交礼会です。
日時　1月5日（月）　15:30〜16:30
会場　シェラトン都ホテル大阪4F「浪速の間」
　大阪市天王寺区上本町6-1-55
会費　3,000円
申込締切日　12月3日（水）
会費を添えて12月3日（水）までに本会事務局までお申込ください。12月9日（火）以降のキャンセルについては、会費のご負担をお願い致します。

本会の催し参加問合・申込先
大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5階
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP http://www.aba-osakafu.or.jp/

Administration
行政からのお知らせ

「低炭素建築物の認定制度」を創設（大阪市）

大阪市内の市街化区域で低炭素化のための建築物の新築等をしようとする方は、大阪市に認定を申請することができます。認定を受けた建築物には、税制優遇や容積率の特例があります。詳しくはHPをご覧ください。
問合　大阪市都市計画局建築指導部建築確認課
Tel.06-6208-9298
http://www.city.osaka.lg.jp/toshikeikaku/page/0000192192.htm/

平成26年度大阪府住宅省エネルギー施工技術講習会

住宅の断熱設計から断熱施工までのポイントをテキスト・DVD・カットモデルを活用し分かりやすく解説します。
日程　11/13、11/20、11/27のいずれか1日
時間　10:00〜17:00
会場　花博記念公園ハウジングガーデン
　センターハウス2階
　大阪市鶴見区焼野1丁目南2番
講習会費用
　1,000円（受講料）＋別途修了証発行手数料
　（修了証なしも選択可能）
主催・問合　大阪住宅センター
　Tel.06-6253-0073
　小角（こすみ）・寺尾・山田
※詳細はHP（http://www.shoene.org/）
　もしくは主催問合先へお問合せください。

Others
その他のお知らせ

分譲マンションセミナー

大規模修繕工事の注意点など、マンションの維持管理についてのセミナーです。
日時　11月16日（日）　13:30〜16:30
会場　茨木市立男女共生センター
　ローズWAM B2F　WAMホール
　茨木市元町4-7
内容
- 大規模修繕工事をムダにしないために
　講師　（公社）大阪府建築士会　橋本頼幸
- 管理組合の運営と震災対応
　講師　（公財）マンション管理センター
　大阪支部支部長　長田康夫
- 質疑応答

定員　180名（申込先着順）　参加費　無料
申込締切日　11月7日（金）
問合・申込　大阪府住宅供給公社
　Tel.06-7669-0012

現存する貴重な大阪市東淀川の高架式の高射砲陣地跡の再生計画案と資料展

大阪芸術大学建築学科の卒業設計で、旧軍事施設を平和な施設に保全再生させる案を提案した高射砲陣地の再生計画案と資料を展示します。
期間　11月8日（土）〜15日（土）
時間　10:00〜19:00
会場　堺市立東図書館
　（南海高野線北野田駅前アミナス4階）
問合　戦争遺構研究会
　Tel.090-4289-1492

Sponsorship
建築士会からのお知らせ

本会における既存建築物耐震診断等評価業務
〜平成26年1月より耐震評価業務を開始〜

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の専門家で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。
公立学校施設や沿道建築物などの耐震不適格建築物について、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。
スピーディな審査を心掛けますのでどうぞご活用ください。
なお、本会は平成26年2月18日付けで、（一財）日本建築防災協会の「既存建築物耐震診断・改修等推進全国ネットワーク委員会に入会するとともに、当委員会の耐震判定委員会に新規登録しました。
http://www.kenchiku-bosai.or.jp/nw/
（業務内容）
　耐震診断報告書の審査、評価
　耐震補強計画案の審査、評価 等
（対象建築物）
　公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。
（会員特典）
　申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10%割引があります。
詳細は、本会ホームページをご覧ください。

大阪府知事指定講習
平成26年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法講習会》
11/28・1/30　CPD5単位

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。
（本講習は、国土交通大臣登録講習ではありません。耐震改修促進法により耐震診断が義務付けられた建築物の耐震診断は、日本建築防災協会が実施する登録講習を受講修了する必要があります。）
日程　第1回目　11月28日（金）
　第2回目　平成27年1月30日（金）
時間　11:00〜16:30
会場　大阪府建築健保会館内
定員　各150名（定員になり次第締切）
受講料　会員5,000円、会員外9,000円
テキスト代　7,200円（2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法）

大阪府知事指定講習
平成26年度既存木造住宅耐震診断・改修講習会《限界耐力計算法講習会》
12/18　CPD6単位

既存木造建築物の限界耐力計算法による耐震診断は、一般診断法が建物の強度を評価するのに対して、建物の強度だけでなく、減衰性能も評価することができる診断法です。
したがって、変形能力が高い伝統講法の民家や社寺建築の耐震性能を多角的に評価でき、一般診断法では不可能な変形能力や減衰性能を考慮した合理的な補強計画やダンパーを用いた最新技術による制振補強も可能となります。
この機会に、限界耐力計算法の技術を修得され、今後の業務に活用されますようご案内いたします。
日程　12月18日（木）
時間　10:00〜16:30
会場　大阪府建築健保会館内
定員　各150名（定員になり次第締切）
受講料　主催・後援団体会員6,000円、
　会員外8,000円
テキスト代　4,000円（大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル）

平成26年度 建築士定期講習
1/28、3/25　CPD各6単位

建築士事務所に所属の一級・二級・木造建築士で、平成23年度に定期講習を受講された方が対象です。尚、平成23年度以前に建築士試験に合格し本講習を未受講の方は、平成26年度中に必ず受講してください。
日時・会場
　1/28（水）　9:40〜17:30
　大阪国際交流センター、定員300名
　会場コード5C-03
　3/25（水）　9:30〜17:30
　大阪国際会議場、定員600名
　会場コード5C-53
申込締切日
　1/28（水）開催分：12/19（金）申込書必着
　3/25（水）開催分：2/27（金）申込書必着
　※大阪での申込受付は簡易書留での郵送のみです。
　※定員に達し次第、受付を終了します。
受講料　12,960円（消費税含）
申込書配布・受付場所
　大阪府建築士会事務局
　大阪府建築士事務所協会事務局

実践建築スクール
木造住宅耐震診断・耐震改修の実務
11/5　CPD3単位

木造住宅の耐震診断・耐震改修のニーズが増大している今、依頼者が安心して任せられるよう、様々な現場の状況を的確に調査・判断する技術が求められています。そこで本講習会では、実際に行われた耐震診断・耐震改修の事例をもとに、実務レベルでのスキルアップを目的とした講習を実施します。本講習会では木造住宅の耐震診断・耐震改修に数多くの実績をお持ちの講師をお招きし、実際に手がけた事例の紹介と解説を行います。
日時　11月5日（水）　13:25〜16:30
会場　大阪府建築健保会館6階
内容　耐震診断・改修工事の現場から
定員　150名（定員に達し次第締切）
受講料　建築士会会員3,500円、
　一般5,500円（テキスト代含）

実践建築スクール
基礎から学ぶ木造住宅設計コース
11/18、11/25　CPD9単位

在来軸組工法による木造住宅の設計を体系的に学ぶ機会は少なく、建築計画から構造設計、実施設計などのスキルをきっちりとマスターしておくことは、安全で良質な住宅の設計を行い、依頼者の信頼を得る上で重要です。本講習会は、これから木造住宅の設計に取組もうとする建築士や、木造住宅設計のスキルアップを目指す建築士などをはじめ、建築士以外の建築技術者も対象にしています。
日時　11月18日（火）、25日（火）
　13:00〜17:50
会場　大阪府建築健保会館6階
内容　木造住宅の基本設計1・2
　温熱環境設計
　木造住宅の基礎知識1・2
　構造計画
定員　150名（定員に達し次第締切）
受講料　建築士会会員10,000円、
　一般13,000円（テキスト代含）

建築士の会 東大阪
建築士の会 やお・かしわら
わくわく探検（駅前シリーズ）第14弾（おとなの社会見学）
永和駅から暗越奈良街道散策と深江郷土資料館見学
11/15　CPD3単位

建築士の会 東大阪と建築士の会 やお・かしわらでは、毎年秋にわくわく探検（駅前シリーズ）を開催しています。
今回は、永和駅周辺から暗越奈良街道を経て深江までを散策します。
おとなの社会見学は「人間国宝（茶の湯釜）角谷一圭工房」と「深江郷土資料館」を見学いたします。
恒例の、賞品が当たるクイズなどのアトラクションも御用意しています。
皆様のご参加をお待ちしております。
日時　11月15日（土）　9:00〜13:00
集合　近鉄奈良線永和駅改札口
解散　深江郷土資料館
スケジュール
　9:00　受付開始
　9:15　散策出発
　12:30　クイズの解答、賞品授与
　13:00　解散
募集　30名（申込先着順）
参加費　1,000円
※開催1週間前に参加証を送付予定。

建築士の会 いずみ野
総会+施設見学+食事会「田尻町愛らんどハウスの夕べ」
11/15　CPD2単位（予定）

建築士の会いずみ野では、平成26年度の総会と併せて食事付の施設見学会を実施します。内容は田尻町歴史館（大阪府指定有形文化財。通称：愛らんどハウス）を夕刻より借り切って、総会+施設見学後、同施設内のレストランにて食事会を実施するというものです。
日時　11月15日（土）　18:00〜20:00
受付　17:30〜
総会　18:00〜18:30
施設見学&食事会　18:30〜20:00
会場　愛らんどハウス
　泉南郡田尻町大字吉見1101-1
募集　20名（申込先着順）
参加費　4,000円
※施設見学のみの場合は無料
※食事会参加の有無を明記してください。
※参加証は実施1週間前に出状します。

建築士の会 北摂
岸和田製鋼工場等（棒鋼メーカー）の見学会
11/22　CPD2単位（予定）

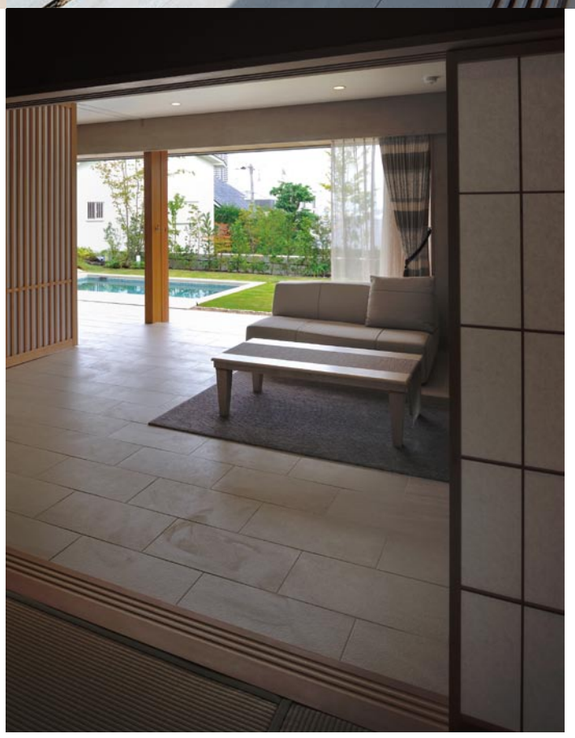
本会地域分科会「建築士の会 北摂」では、今回、関西地域の棒鋼メーカー（電炉）は4社ありますが、その内の1社である岸和田製鋼と関連グループの岸和田金属にて、鋼片を再加熱・圧延して製造される異形鉄筋の過程と閉鎖型フープの製作状況等の見学を行います。普段は電炉では、夜間可動が多く、なかなか見られない工場見学です。
日時　11月22日（土）　12:30〜16:30
集合　南海本線「岸和田駅」改札口付近
スケジュール　12:30　受付開始
　13:00　出発
　13:30〜16:30　見学予定
見学場所　岸和田市臨海町20（岸和田駅よりタクシーにて分乗予定）
募集　20名（申込先着順）
参加費　1,000円
※開催1週間前に参加証を送付予定。

建築士の会「北河内」ウォーキング
「続・東高野街道歴史散策 IN 大東」
11/30　CPD2単位（予定）

東高野街道は、京から高野山への参詣路の一つです。昨年の八幡に引き続き今回は、大東市を散策します。JR野崎駅から出発し、かつての野崎参りの船着き場から観音道に沿って散策し、歴史民俗資料館で大東市の歴史を学び、専応寺、野崎観音への道のりを、市のボランティアガイドさんの案内で散策します。尚、見学会終了後に懇親会を行いますのでこちらも多数ご参加下さい。
日時　11月30日（日）　14:00〜16:00頃
スケジュール　13:40〜　受付開始
　14:00〜16:00　ウォーキング
　17:00〜19:00
　JR野崎駅付近にて懇親会を予定
集合場所　JR学研都市線　野崎駅改札口
募集定員　約20名

野生と和の家

設計：木原千利設計工房
施工：エス・エー・シー



建築主の要望が、平面形状を決定づける大きな要因となった住宅のひとつである。庭にプールがあり泳ぐことができ、屋上にはデッキを作り、敷地の南側に海の遠望北側には山並みが眺められるようにした。室内には楽器を楽しめる空間と、日々の暮らしの中にスポーツや遊びを取り込むことができればという想いが住まいのかたちとなった。リゾート施設のようなプールがあり裸足で歩き回れる芝生庭は、大きく開け放つことのできる開口部と庇を大きくかけたテラスにより、居間食堂という生活空間にうまく取り込んだ。開放的な屋内外一体の要素と私の和のスタイルが融合した遊び心のある、楽しい住まいとなった。

所在地：兵庫県神戸市
用　途：住宅
竣　工：2013.10
構造規模：木造2階建て一部RC造
敷地面積：339.17㎡
建築面積：153.48㎡
延床面積：246.89㎡
写　真：松本憲洋

岡町の家

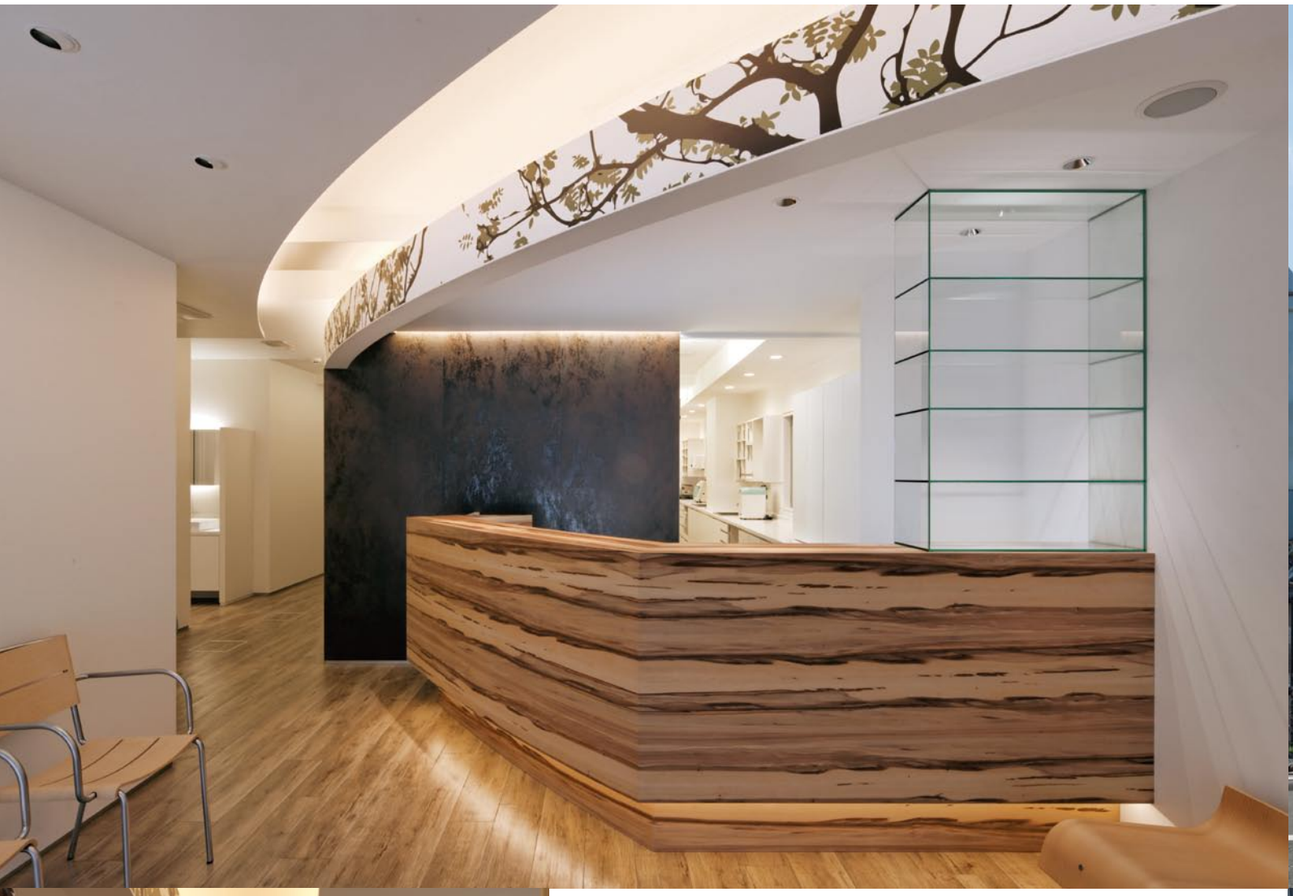
設計：マニエラ建築設計事務所
施工：笹原建設

計画地は姫路城から500mほどの場所に位置する姫路市岡町である。長いアプローチは、中庭と併用の空間となっており、吹きぬけから差し込む優しい光に導かれる。また、一直線に北側へ抜けていることで空間をより一層伸びやかに感じさせ、心地よい風がアプローチを吹き抜ける。室内は高低差のある様々な「場」が存在し、異なるレベルのフロアは5層となった。LDKの空間を中心とし、それぞれの室へ入る構成となっており、家族が異なる場所にいながらもお互いの存在を感じることのできる空間となった。

所在地：兵庫県姫路市
用　途：専用住居
竣　工：2014.07
構造設計：木構造建築研究所　田原
構造規模：木造
敷地面積：348.33㎡
建築面積：79.54㎡
述床面積：143.68㎡
写　真：喜多写真事務所

さわい歯科クリニック

設計：横関正人＋横関万貴子／NEO GEO
施工：匠家具工芸



建設地は大阪市内の電気街で有名な日本橋の近くに位置する。
アプローチ部分には制限があり、狭い空間をぬけると待合・受付が広がる空間とした。
受付から診察室への通路の壁面を曲面とし、柔らかく患者を受け入れ、その壁に落ちる間接照明からの光を木洩れ日と想定し壁面に樹形を抽象化したグラフィックをプリントし、床材と共に暖かみのある空間とした。
平面計画は、中央に診察室を配置し、動線を分離しながら回遊性のあるプランとした。

所 在 地：大阪市中央区
用　　途：歯科医院
竣　　工：2013.10
構造規模：RC 造 4 階建
　　／1 階部分
施工面積：142.37㎡
延床面積：171.60㎡
写　　真：絹巻　豊

大今里の家

設計：井上久実設計室
施工：伊藤嘉材木店

三方を道路に面した角地に、ご高齢のクライアントが外部の喧噪を気にすることなく暮らせる静かな住まいを提案しました。
片流れの大屋根と壁で構成されたボリュームが、生活空間を包んでいます。大屋根の中央を切り取って中庭とテラスとしたり、廊下への採光の為に屋根に段差を設けることで、空間の豊かさと圧迫感の軽減を両立しました。内部では高窓やガラスブロックを通じて光を通り入れ、外部の視線から守りながら明るさを得ています。大屋根の形状そのままの勾配天井の高い廊下と居室の隙間から、視線と光が通り抜ける安全で快適な住まいが出来ました。

所 在 地：大阪府大阪市
用　　途：専用住宅
竣　　工：2014.09
構造規模：木造2階建て
敷地面積：103.29㎡
建築面積：74.10㎡
延床面積：109.60㎡
写　　真：冨田英次

連載 建築の射程 第20回

今、「大正区が元気だ」と感じておられる方が多いのではないでしょうか。5月と8月に行われた「大正の街を、暮らしを、もっと豊かに。リノベ@大正区」は立ち見が出るほどの熱気あふれるシンポジウムでした。この講演会の最初に「大正リノベーション構想」について話されていた、筋原章博大正区長よりご寄稿いただきました。

リノベーションによる大正区のまちづくり

筋原　章博

和歌山県出身。大阪市立大学商学部卒。1985年に大阪市に奉職。区役所勤務を経て、港湾行政に20年以上携わる。その間、海外技術協力のためイラン・スリランカなどに駐在。2010年に大正区長に就任し、2012年、公募区長として再就任。「おきナニワんプロジェクト」や自らのCD発売などの話題作りで年間100回を超えるメディア発信を行い、大正区のイメージチェンジと活性化を進めている。

一．大正区というまち

大正区は大阪市二四区のうち西部臨海部に位置し、周囲を尻無川・木津川・大阪港に囲まれた水辺空間豊かな「島国」です。戦前から、繊維、木工、造船、製鉄など製造業が盛んで「ものづくり」の歴史と技術力を持つ企業や工場が多く操業しています。また、人口六、七千人のうち四分の一が沖縄出身者とそのご家族と言われており、まちなかにはシーサーの置物や三線の音色など、沖縄の日常そのままの景色や音があふれています。住民の方々には飾らない親切な気質の方が多く、子どもや高齢者はみんなで見守ろうといった旧き良き気風が残るまちです。

これらの、①「川と海の水辺空間」、②「ものづくりの伝統と技術力」、③「沖縄と大阪が融合した文化」、④「昔ながらのあたたかい人情」が大正区の四大魅力と言えます。

二．大きな課題である人口減少

しかしながら、産業構造の転換に伴い、区内の工場は縮小あるいは廃止が相次ぎ、社宅も多く廃止され、バブル経済崩壊前の平成二年には八一、二七二人だった区内人口は本年平成二六年八月現在で六六、五三四人に減少しています。商業の事業所数も平成三年の一、六二〇箇所から平成一九年には九八六箇所と約四割減少している状態です。

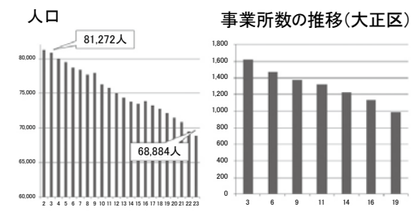
区内での商品売上額の推移をグラフで見ると、人口減少に連動して同じカーブで減少し続けており、人口減少が大正区の主要な衰退原因であることは明らかでした。区内の商店街は多くはシャッター商店街となり、相次ぐ店舗の閉店にも歯止めがかからない状態です。

そこで、「多くの人を集客出来れば区内の商店も元気になり、リピーターが増えれば新たな商店も誘致でき、人口減少にも歯止めがかかるのではないか」という考えのもと、大正区は従来の「工場の多い下町」といった地味なイメージを一新し、イメージチェンジを目指しました。

三．区のイメージアップ作戦

平成二四年、大正区制八〇周年の記念となる年に、NHK朝の連続テレビ小説「純と愛」の舞台に沖縄県宮古島市と大正区が選ばれました。これを機に大正区では「沖縄のおおらかさと大阪ナニワの人情を合わせてまちを元気にしよう」という「おきナニワんプロジェクト」をスタートさせました。沖縄と大阪の食材を合わせたメニュー「おきナニワんフード」を四〇種類以上区内飲食店と開発し、グルメツアーも開催。沖縄三大綱曳きの一つ「与那原大綱曳き」を大正区でエイサー祭りとともに開催し、五万人の集客を実現。NHK「純と愛」効果もあり、イベントの日には区内の舞台地・平尾地域の沖縄料理店は行列が出来て入れない盛況となりました。

翌二五年には川と海の水辺空間を活かした活性化事業「大正リバーサイド物語プロジェクト」をスタート、海辺の未利用地を活用した「たいしょう花火大会」も実現。



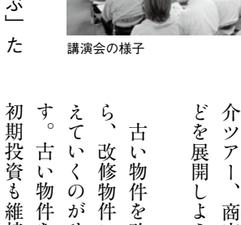
人口・事業所数の推移

同時に区長である私自らも区のPRソングを自作しギターを片手に路上やイベントで歌い、自作曲CDも制作するなどPR活動に努めたところ話題となり、ニュースからバラエティに至るまで多くのテレビ番組から出演依頼をいただくようになりました。大正区は新聞・テレビ・雑誌などメディアに一〇〇回以上取り上げられ、イベントを打てば万人単位の集客実績が見込めるようになり、観光情報誌にも大正区に頁が割かれるようになりました。一連のプロジェクトによる区のイメージアップには一定の効果があったと思います。

四．集客だけでは変わらないまち

しかし、これらのプロジェクトを実施している間も大正区の人口減少には歯止めはかかりませんでした。

集客イベントで大正区に来られた方は、同様の集客イベントのリピーターにしかならず、年に一度や二度の大規模イベントだけでは開催日に何万人の集客があってもまちの日常を変えるまでには至りません。テレビや新聞雑誌で大正区が取り上げられ、ご覧になった区外の方々が大正区にお越しになっても、イベントが無い日には区内に足を止めて何時間か過ごすことのできる場所が無く、来られた方は失望して帰ってしまうことになります。



大綱曳・おきナニワん

大正区

シーサー

結局、「まちに住み続けよう」と思ってもらうためには、非日常的な集客イベントを散発的に実施するだけでは不十分で、「会いたい」と思えるマスターの居るお店や、信頼できるスタッフのいる施設など、「日常生活の中で、他の人と一緒に楽しい時間を共有できる場所」を作り出す必要があることを痛感しました。

マスターのいる店

五．集客イベントだけでなく、「楽しい日常生活」のあるまちを目指して

そんな時に、北九州市小倉で「リノベーションスクール」という手法を使い、空き物件を活用した事業を幾つも実現させ新規雇用も作り出している事例に出会いました。少々乱暴に単純化して言うと、これは、テレビ番組の「劇的ビフォーアフター」の様に、実際の遊休不動産を題材に、住民や全国からの参加者がスクール生となり、「匠」にあたる専門家の指導のもとリノベーションプランを策定するという取り組みです。テレビ番組と違うのは、専門家が収支計画も含め実現可能な形になるまで徹底指導し、不動産オーナーにプレゼンテーションをして事業化まで目指していく点です。今年度から、大正区役所も北九州市でのリノベーションスクールに職員が参加し、そこに集う専門家の方々に大正区の現状を視察いただき、アドバイスとサポートをいただいています。

大正区ではリノベーションの取り組みを行うことで以下の三点を実現したいと思っています。

講演会の様子

一 まちで「住み」、「稼ぎ」、「遊ぶ」ための店や施設を作る

賃料の安い古い空き物件を活用し、必要最低限のリノベーションで初期投資額を低減させることで、事業の収益性を確保します。

二「会いたい人」の居る店や施設を作る

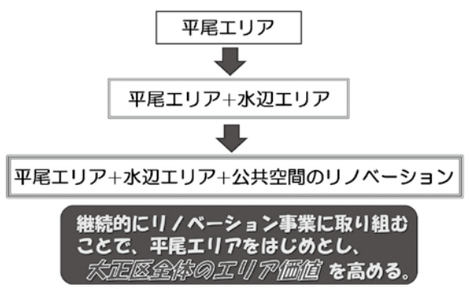
新しいことを始めたい若い人は、往々にして十分な資金を持たないものの、店舗は自分のセンスに合った形にしたいという思いがあります。リノベーションはこういう条件に合う手法です。事業者のセンスを大切にし、進出条件のハードルを下げる環境づくりで、面白く求心力のある事業者の人材を発掘します。

三 まちに愛着を持つ人を育てる

区外から人を呼び込む前に、まずは大正区民にご近所の店や施設やそこで働く人を好きになってもらい、大正区のファンを育て住み続けてもらうことで人口流出に歯止めをかけます。

具体的な取り組みとしては、今年五月と八月にリノベーションの専門家による講演会を実施し、夏には平尾商店街とその周辺で大阪市立大学と京都大学の大学院生のご協力で空き物件調査を行いました。今後はさらにテーマを絞った講演会を行うとともに、実際の空き物件を使った事業化プランを作成するワークショップ、DIYワークショップ、空き物件紹介ツアー、商店街での軒先マーケットなどを展開しようとしています。

古い物件を改修するのがリフォームなら、改修物件に人が集う「意義」まで変えていくのがリノベーションだと思います。古い物件を使い、DIYも活用して、初期投資も維持費も抑えるリノベーションの手法で、「面白いことをしたい」と思う人を大正区に招きいれ、日常生活を楽しくする様々な事業がまちで展開することを切望しています。それがエリアの価値を高め大正区のまちが将来も生き残る道となると信じ、平尾エリアから水辺エリア、公共空間へとリノベーションの取り組みを広げていきたいと考えています。



イメージ・ステップ

ひろば HIROBA　『今、自治体のアツイとこっ！』　連載　第三回

各自治体のホットな取り組みをご紹介します。

～輝くひと　やすらぐくらし　にぎわうまち　ともにつくる自由都市・堺～

文　坂元　肇

堺は、古代・中世から現代に至るまで、それぞれの時代において発展を遂げて来た輝かしい歴史と伝統を持つ都市であります。

古墳時代には、世界最大級の「仁徳天皇陵古墳」が築かれ、また、中世の室町時代には、わが国における日明貿易や南蛮貿易の拠点として賑わい、「会合衆」と呼ばれる有力商人がまちを統治する「自由・自治都市」として大いに繁栄しました。

堺市は、明治二二年の市制町村制施行により、全国で初めて誕生した市の一つであり、一四次にわたる近隣二二町村との合併を経て、現在では、人口約八四万人、面積約一五〇㎢となり、人口規模では全国第一四位の都市に発展しています。

『政令指定都市』堺のまちづくり

わが国では今、企業収益や雇用の改善が見られているものの、国・地方を問わず財政状況は依然として厳しく、少子高齢化の進展や人口減少時代の到来という大きな時代の波を、今後いかに克服していくかという課題を抱えております。併せて、地方分権の流れにより都市間競争が一段と激化しており、今後は都市においても「発展するまち」と「衰退するまち」の二極化が更に進むものと思われます。

このようななか、「堺」を魅力と活力に溢れ、持続的に発展するまちとするために、更なる「行財政改革」を進めるとともに、政令市の権限と財源を最大限に活用し、まちづくりの指針となる都市計画マスタープラン等を策定して、その実現に努めています。

とりわけ、堺市の将来展望について、市民に身近な基礎自治体としてより高い行政効果を発揮し、きめ細やかな住民サービスを提供していくこと、そして将来にわたって市民の「やすらぐくらし」を形成していくことが重要と考えています。

そのために、堺市民が五〇年近くかけて実現した「政令指定都市」としての権限と財源を活かしながら、三つの挑戦、「子育てのまち堺」、「歴史文化のまち堺」、「匠の技が生きるまち堺」を掲げ、市民サービスの向上と堺市の発展に取り組んでいます。

「歴史文化のまち堺」

現在、堺市は羽曳野市、藤井寺市、そして大阪府と一体となって、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録の実現のため、市民、事業者とともに、その実現に向けた機運を盛り上げ、早期の登録をめざしています。堺市としても、仁徳天皇陵古墳を中心とした周辺整備を進めていくことはもとより、登録に必要な百舌鳥古墳群の「顕著な普遍的価値」を守れるよう、古墳群だけでなく周辺環境を含めて一体的に保全を図る必要があります。そのため、適切な範囲（緩衝地帯）で建築物の高さや形態意匠、屋外広告物に制限を設けるべく、今後、都市計画法及び景観法による手続きや条例改正を経て、その周知を徹底し、目的を着実に実行できるよう、地元説明等を鋭意進めているところです。

一方、土居川と内川に囲まれた堺環濠都市区域の北部には、江戸時代に形成された町割とともに、町家など風情ある建物が多く残っています。しかしながら、年々その数は減少し、歴史的なまちなみが失われつつあります。このため、古い町家を始めとする建築物の外観を修景し、それらが連なった歴史的なまちなみ再生をめざしています。そこで、これまでこの地域では、歴史的なまちなみの再生について、堺市と地域の方々とともに考える「歴史的まちなみ勉強会」を開催し、環濠都市の成り立ちや他都市の取組の紹介、まち歩き、講演会などを行ってきました。このような取組を経て、今年五月に「堺環濠都市北部地区町なみ再生協議会」が発足し、協議会と堺市が協働で、まちなみの再生に取り組んでいるところです。

また、戦国時代以降、町中と周囲三方に堀をめぐらせた環濠都市区域は、侘び茶の大成者、茶聖・千利休が生まれ育った地で、茶室も多く、茶の湯文化が根づいています。

そして、情熱の歌人・与謝野晶子のゆかりの地でもあり、約二〇の歌碑が市内に建っています。こうしたなか、来年三月には宿院に千利休茶の湯館と与謝野晶子記念館を中心に、民間施設も加えた文化観光拠点「さかい利晶の杜」がオープンする予定です。

さらに、江戸後期には醸造業で栄え、建物に贅をつくした立派な屋敷が並ぶようになり、「京の着だおれ」「大阪の食いだおれ」と並び「堺の建てだおれ」と呼ばれておりました。

「もののはじまり何でも堺」という言葉どおり、刃物、自転車など匠の伝統産業が息づき、鉄砲製造、傘、かるた、金魚、学生相撲などが堺で起こったとされています。

このように常に新たな時代を切り拓き、発展を遂げてきた堺。いくつもの時代が重層するまち堺に、これを機に様々な時代にタイムトリップしていただければ幸いであります。

「都心のにぎわいづくり」

都心の中でも堺東駅周辺については、堺東駅南地区市街地再開事業等のハード整備とソフト施策の連携、また、行政と地元と民間事業者の協力などにより、まちづくりが動き出していることを実感できる、具体的な事業を進めています。

行政としても、市民交流広場の整備や市民会館の建替えを着実に進めるとともに、にぎわい活性化づくりには市民や民間事業者の取組が欠かせません。

今、堺市では民間主導の象徴的な事業である、大浜少女歌劇団の復活に向けたプロジェクトが進んでおります。

また、堺東にある「キッズサポートセンターさかい」の中に設置されている室内遊び場「キドキド」は、多くの来場者を集める人気の高い施設です。現在、大阪府内にはグランフロント大阪と千里丘に設置されていますが、南大阪では初めてとなり、堺東のにぎわいづくりにもつながるものと考えています。

堺東商店街と隣接する市民交流広場では、地域の活動団体、地元の商業者、学生など様々な担い手の方々と、ワクワクドキドキするような取組を進めるとともに、少女歌劇団の定期ライブ会場としても利用される予定です。

堺東界隈が、市内外の方々から、「何か面白そうなことをやっている」「ここで何かしてみたい」「行ってみたい」と言われるようなまちになればと思っています。

さらに、中心市街地活性化と都心の公共交通網の整備については、これからの堺市の発展に欠かせない事業です。費用対効果にも十分に留意しながら、堺の将来の発展に向けた布石を打っていくことが重要であります。そして、長期的なまちづくりの観点から、堺が受け継いできた歴史と文化を後世に引き継ぐという思いを込め、堺一〇〇年の計として長期的な視野に立って取り組んでいくことが大切であると考えています。

「匠の技が生きるまち堺」

堺は古来より匠の技が息づく、ものづくりのまちです。江戸幕府から「堺極」の印を受けた打刃物をはじめ、自転車、注染和晒や線香などの魅力あふれる伝統産業品が数多くあります。

特に、鉄砲鍛冶をルーツに持つ刃物職人が作り出す堺の打刃物は、国内外のプロの料理人からも認められるほど高い技術力を誇っており、ニューヨークを始め世界に向けてPRしている状況にあります。

また、堺市内の企業の九九%を占める中小企業の中には、匠のDNAを受け継いだ高い技術力を持った企業がたくさんあります。新商品開発や販路拡大など、基礎自治体として地元産業との連携強化が重要です。

おわりに

私自身のことで恐縮ですが、名前のとおり「もののはじめはみな堺」に準じ、縁あって堺市に奉職し、これまでまちづくり関係一筋で三〇有余年。今後とも、運命的な出会いと感謝の気持ちを大切に、一期一会の精神と初心を忘れず、尚のこと、生涯一土木人をまっとうできればと思っております。

まちづくりを進めていくには、堺市に住み、働き、学び、憩う人々が一層充実した生活を営める地域社会を形成し、歴史文化資源等良好な既存ストックを有効に活用しながら、都市づくりの課題に対応した持続可能なまちにしていかなければならないと考えております。

このためにも、行政だけではなく民間企業や市民などまちづくりの担い手となる多様な方々の協働と連携、さらには、建築を始めとする専門家のお力添えは必要不可欠であります。

どうか皆様方には、堺市の更なる飛躍と発展に向け、今後とも力強いご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いします。

百舌鳥古墳群周辺写真

「さかい利晶の杜」イメージ図

堺市立町家歴史館「山口家住宅」（堺環濠都市区域内）

坂元　肇

堺市建築都市局都市計画部長

一九五六年　大阪市生まれ。

一九七九年　大阪市立大学工学部卒、堺市へ入庁。

企画、土木行政、まちづくり等に携わる。

二〇一二年　四月より現職。

理事会報告

文責　本会事務局

日時　十月十五日(水)十六時～十七時三十分
場所　本会会議室
出席　理事三二名、監事二名

(1) 収支状況について

九月末日の当期経常差引額は、収入九九、五六四、三六四円、支出六二、六〇〇、五七八円、差引三六、九六三、七八六円を報告して承認された。

収入では、会費及びCPD登録費が対予算で約九割納付された状況、行政支援は実施経過に伴う収入、耐震評価業務の件数も若干伸びたこと、木造耐震診断講習も昨年並みに実施できる状況となったことなどを説明した。支出では、事業経費の計上が後追いとなるので収支差引額は今後小さくなることを説明した。

(2) 他府県建築士会会員の建築物の耐震評価手数料の割引について

他府県建築士会の紹介による耐震評価案件の申請について、本会事業を広く周知するために次の条件等で取り扱うことが承認された。

- 近隣の建築士会に広報の協力を依頼する。
- 広報協力の覚書を交わした建築士会は、大阪申請への窓口となり、所属会員を紹介いただく。
- 当該建築士会には、広報手数料として評価手数料のうち五％を還元する。
- 当該建築士会の所属会員は、大阪会員同様に一〇％割引の対象とする。

(3) 定時総会の講演候補者について

二七年度定時総会を五月二八日（木）実施としており、講演候補者の検討を理事・委員会で選出して近々に具体化する。

建築相談

建築士の見たトラブル事例（二十三）
マンションの耐震性能についての不安

編・構成　橋本頼幸

旧耐震のマンション購入に関する相談

電話の相談者が購入を考えている建物は、旧耐震基準(昭和五六年以前)で設計されたマンションでした。耐震基準が現行基準を満たさないこと以外はすべてお気に入りとのこと。そのマンションでは長期修繕計画を始め管理面での整備もしっかりされているようなのですが、耐震診断だけが実施されていません。昨今の地震や耐震改修に関する報道をみて、購入者が判断できるチェックシートがないかとの相談でした。

チェックシートはない

壁式構造の低層の建物では一部耐震性能を有する建物もありますが、簡単なチェックシートで判断はできないことや、基準を満たせないものが大半であることをお伝えしました。何か自分を納得させるお話を聞きたかったのだと思いますが、期待された回答が得られず、少し残念そうに電話を切られました。

立地がよく、お手頃価格

一九八一年(昭和五六年)に耐震基準が見直され、改正以前に確認申請を受けた建物は旧耐震基準とされています。この時代のマンションは、利便性が高い立地に建設されたものも多く、値段も手ごろであることから人気が高いようです。内外装仕上げの変更や設備の取り替えなど少し手を加えれば、それなりに快適に利用することが可能ですから、リノベーションの対象になっているものも多いのではないでしょうか。

進まないマンションの耐震診断と耐震改修

統計によると、政令指定市と県庁所在市、東京二三区の七四市区を対象とした調査結果として、自治体の助成で耐震診断をした集合住宅の約八割が耐震不足と判定され、耐震工事の実施率が約一割あるようです。

国土交通省では耐震を促進すべく①認定基準の緩和、建蔽率、容積率の特例、②大規模な改修を行う場合の議決権の緩和(三／四→／二)③耐震性能の表示制度の創設を設けました。改修工事が円滑に行われるための政策です。

しかしながら高経年マンションの管理組合が抱える区分所有者の高齢化もあり耐震診断を総会議案まで上げるケースは少ないのが現状です。

耐震診断・耐震改修に関する悩み

耐震診断は、耐震改修の有無や改修方針を検討するための入口にあたります。建築士会では大阪府、大阪市に対し管理組合向けのアドバイザー派遣を行っており、高経年のマンションの管理組合から耐震診断に関するアドバイスを求められることもあります。建物診断、改修計画に関する制度を説明する機会も多くなってきましたが、前述のような緩和制度や法律の改正についても理解している管理組合が少ないのが現状です。さらに、知っていたとしても実際に活用できない経済的な事情や区分所有者の高齢化や賃貸化、居住していない所有者、新しく中古住宅として入居する若い世代との住まいの将来に対する意識の違いなどのマンション管理組合個別の事情などがあり、実行に移すまでになかなか至りません。

建築技術を超えた総合的な取り組みが必要

この問題を今後取り組むうえで、私たちの専門としてきた建築の技術だけでは解決できないのが現状です。これからの取り組みとして、建築士だけでなく他分野の専門家とも共同した相談制度も必要ではないでしょうか。

今月は、相談委員の桑原宏明様に話題提供していただきました。

大阪ホンマもん解説

写真　田籠哲也　文　牧野隆義

大阪の観光名所と言えば道頓堀左岸に面した道頓堀グリコサイン。川に面した看板群は、大阪を代表するアイコンとして親しまれている。

初代広告塔は昭和一〇年(一九三五年)に設けられた。その後、戦争により鉄材供出のため解体された時期もあったが、戦後復興を遂げる昭和三〇年(一九五五年)「一粒三〇〇メートル」のキャッチコピーと共に、ようやく二代目の広告塔が道頓堀に戻ってきた。両手を大きく広げるランナーの背景には、大阪の観光名所などが描き添えられている。平成二三年(二〇二一年)に東日本大震災が発生。この看板は翌日から二四日間点灯を中止し、私達と共に黙祷を捧げた。しかし、老朽化等により平成二六年(二〇一四年)八月一七日を以て点灯を終了。五代目の役割を終え、現在は六代目へと改修中。

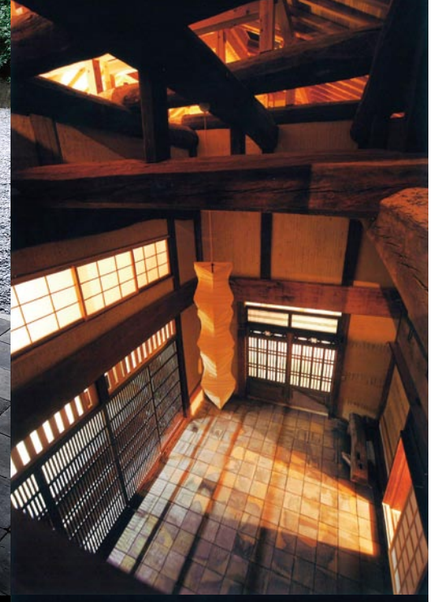
看板は時代を映す鏡として切り取られ、観光客の時代を映す背景となる。道頓堀川にプールが出来ようが、勝利を確信したランナーは私たちの未来を照らし出してほしい。

建築人　11
2014

監修　公益社団法人大阪府建築士会
建築情報委員会

編集　建築情報委員会『建築人』編集部

編集人代表　米井　寛
編集人　荒木公樹　飯田英二
河合哲夫　黒川祐樹
筑波幸一郎　中江　哲
橋本頼幸　牧野隆義
事務局　山本茂樹　母倉政美
印刷　中和印刷紙器株式会社



淡路瓦イズム

『甎（せん）』

野水瓦産業株式会社
http://www.nomizu.co.jp/

取材：中間伸和／建築情報委員会委員

400年の歴史を持つ淡路瓦は「淡路瓦イズム」を通し、これからの時代に社会から必要とされる瓦づくりに挑戦しようと考えています。今年も淡路瓦イズムを実践している会社を紹介しています。

今回は日本の伝統的建造物の屋根として使われ続けている「いぶし瓦」を研究し、造り続けている野水瓦産業株式会社です。

取材の為会社訪問し、野水瓦産業株式会社の野水専務に「何か新しい話題はありませんか？」とお聞きした所、「新しいものでは無いのですが・・」と見せて頂いたのが一枚の敷瓦でした。

25㎝角、厚み4㎝。ずっしりと重く、「瓦」と言うよりは、モダン絵画のようにも見え、第一印象は、床に敷くよりは、壁に飾るオブジェのようでしたね。

この敷瓦は、淡路在住の写真家で瓦師の山田修二氏が、約6年前にご自宅の庭に復元した達磨窯で昔の工法に基づいて焼いた「瓦」の中の一枚、とのことでした。

昭和40年代までは、まだこのような窯が実在していたとのことですが、時代の流れで金属の窯に変わって行き、またガスを使って焼くようになって、現在のような均質な瓦が簡単に手に入るように変わって行った、とのことで、このような窯は現在では姿を消し、今では全国に数基しか残っていないそうです。

「窯の密閉度が低く、熱が均等に伝わらないことで出来上がるムラが逆に味となっていて、今のような工業生産品では絶対に出来ない瓦が出来上がります。また、含水率が約18%ととても高いので、時間が経つと苔むす感じになり、だんだんと黒くなっていきます。かといって汚くなるわけではなく味わいが増してきます。」と語る野水専務。

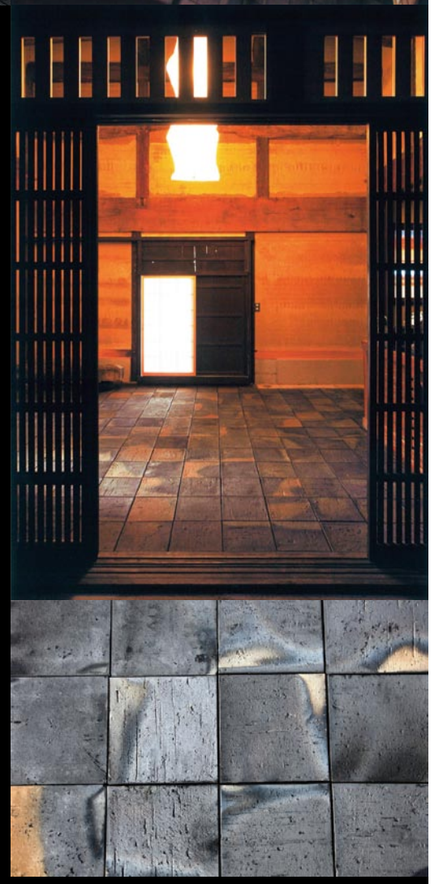
大量生産では決して出来ないものですので、一枚一枚が全て違う模様を持っています。それをどう組み合わせて、どの場所に使うかは、設計者と職人さんの腕の見せ所ですね。

現在は、月に一回程度窯を稼働し焼成しているそうで、その時は窯元の有志が集まり、焼き上がりまでの48時間、作業を行い見守るとのことです。

この敷瓦は「甎」という名前で商品化されています。製作は「DGプロジェクト脩」で野水瓦産業株式会社が事務局をされています。

どこにでも簡単に使える材料では無いかと思いますが、中庭の床や、和の空間の壁等、ここぞという場所に使える材だと思います。

興味を持たれた方は、ぜひ野水専務に相談、問い合わせをしてみてください。



■淡路瓦のお問い合わせ先
淡路瓦工業組合
兵庫県南あわじ市湊 134
Tel.0799-38-0570　Fax.0799-37-2030
info@a-kawara.jp
http://www.a-kawara.jp/

東大谷高等学校泉ヶ丘キャンパス
㈱竹中工務店　國本暁彦、川口裕人

100有余年の歴史を持つ高校の共学化に伴う全面移転プロジェクト。教育理念「命あることへの感謝」を体験的に養うことができるキャンパスとして、他者や自然、社会とのつながりを育む学校を目指した。

校舎は、採光・通風が良い片廊下プランを「襞」状に折り曲げ、内・外廊下を回廊状に巡らせることで、外部と内部、開放と閉鎖の関係が両義的な中庭を立体的に包含する建築を実現。これまでの学校建築のあり方に一石を投じる空間構成とした。

外観は空間構成をそのまま表出させ、のびやかな水平線を強調する構成とした。古代の須恵器生産地であり、金属を伝統産業とする地域の特性を象徴する、レンガ・タイルや鉄を主な外装材としている。西側では、日射と通風を制御するレンガの透かし積みとし、渡り廊下から学校生活がそのまま垣間見える、地域とつながる風景を創出した。

中庭や外構の植栽には、地域の自生種を植え、周辺緑地とのエコロジカル・ネットワーク形成を図った。グラウンドは生徒自らの手で天然芝を植栽し、安全で快適な運動環境、生き物を育む心の育成、近隣への防塵効果、景観向上を実現した。

「命あることへの感謝」とは「他者・多様性の受容」であり、建築の在り様としてキャンパスの隅々に浸透している。この建築の佇まいが、多感な時期を過ごす生徒の記憶と感覚に永く残り、世代を超えて社会に広く還元されることを期待している。

撮影：稲住泰広　第59回大阪建築コンクール渡辺節賞受賞作品

■プロフィール

國本暁彦（くにもと あきひこ）
1974年生まれ。1999年京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科造形工学専攻修士課程修了、同年竹中工務店入社。2006～07年槇総合計画事務所。現在、竹中工務店大阪本店設計部第5設計部門第4グループ課長

川口裕人（かわぐち ひろと）
1985年生まれ。2009年京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科建築設計学専攻修士課程修了、同年竹中工務店入社。現在、同社大阪本店設計部第5設計部門第4グループ設計担当

■建物データ

建　築　主：学校法人 大谷学園
設　　計：㈱竹中工務店
施　　工：㈱竹中工務店
所　在　地：大阪府堺市南区三原台2-2-2
用　　途：学校
竣　　工：2013年3月
構造規模：RC造、S造、SRC造
　　地上5階　塔屋1階
敷地面積：15,502.59㎡
建築面積：5,273.21㎡
延床面積：14,142.05㎡

建築人 No.605　平成26年11月1日発行　発行人：会長／岡本森廣　発行所：公益社団法人大阪府建築士会　〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F　tel.06-6947-1961